



第112号

本紙は、ピースボート
ト災害ボランティア
センターが、石巻市
内の仮設住宅に向け
て発行・配布する無
料情報紙です。
毎月10日、25日発行。

震災遺構公聴会

旧門脇小および旧大川小の保存と解体に関する公聴会が2月13日、門脇中と飯野川中それぞれ開かれた。旧門脇小は、震災による津波と火災を経験し、それらの痕跡を残す東北唯一の施設。さらに、迫りくる火災の中で校内の避難者が日和山へ避難することができた環境が今も残っている。震災時には、津波と同時に火災も発生すること、人々が協力して避難することの大切さなど、様々な教訓やストーリーを伝承することができると、震災遺構として建物を保存する場合、建物を全部を保存する場合と一部を保存する場合がある。また保存した校舎を公開活用する場合としない(外から見

だけ等)場
合があり、
それぞれか
かる費用が
変わってくる。一般的には、解体よりも保存、一部保存よりも全部保存、公開活用なしよりもありの方が費用がかかる。門脇小の場合は、火災の痕跡が分かる壁だけを残すケースや、校舎の真ん中部分だけを残して校舎内を見学できるように整備するケース、地区住民の感情に配慮して2階までに減築するケース等が紹介された。

公聴会では、「公費での保存には反対。お金は復興のために使っ
て欲しい」「神戸の震災では震災遺構を残さず後悔が残ったと聞く。防災教育の一環としてぜひ残して欲しい」といった意見が述べられた。
一方、大川小の公聴会では、遺族の立場から保存・解体を強く訴える意見が寄せられた。「建物を解体したからといって、悲しみは消えるものではない。未来のために有益な選択を」「多くの命が失われた悲しみを想起させる校舎は必要ない。震災の教訓は建物ではなく教育によって伝承すべき」。どの意見も悲痛な感情に満ちていて、胸が締めつけられるような1時間半だった。

どちらの公聴会でも印象的だったのは、中高生たちが立派に意見を述べる姿。震災当時小学生だった彼らの成長と勇氣に感嘆すると同時に、彼らの声に耳を傾けられる大人でありたいと思った。
保存か解体かの方針は3月下旬に出される予定だ。
(ピースボート あき)

東日本大震災「追悼3・11のつどい」

3月11日で、震災から丸5年を迎えます。キャンドルを灯し、共に祈りませんか。どんなでもお気軽にお越しください。当日ボランティアも募集しています(朝9時半集合)。(がんばろう!石巻の会 黒澤)

【日時】3月11日(金)
14時46分 黙禱/15時
バルーンリリース/16時半
キャンドル点灯
【場所】「がんばろう!石巻」看板付近(門脇5丁目)
【問合せ】0900-3643-11910(黒澤)

**湊地区に
お住まいだった皆様へ**
湊第二小学校の閉校から、まもなく丸2年が経とうとしていきます。この機会に、普段なかなか入ることが出来ない「湊第二小学校メモリアルホール」を一般開放いたします。ホール内には、湊二小に縁のある懐かしい品々

**湊二小メモリアル
ホール一般開放**
【日時】3月12日(土)
10時~15時 ※13時
佐藤茂久さんの語り部
【場所】湊小学校一階
【問合せ】0900-7334-3079(高橋)

々が展示されているほか、希望者には閉校記念誌もお渡しいたします。また震災当時、湊二小の教頭であった佐藤茂久さんより、震災当日の湊二小の様子をお話していただきます。ホール内は飲食も自由です。ぜひお誘い合わせの上、懐かしい湊二小に会いに来てください。
(湊第二小学校・元PTA会長 高橋)

**上釜地区に
お住まいだった皆様へ**
上釜地区では、震災の影響で上釜を離れた方も含め、上釜を想う気持ちのある方々が交流できる場を作ろうと、今年度より取り組みを始めました。「上釜を愛する会(仮称)」

**上釜地区に
お住まいだった皆様へ**
上釜を愛する会設立
【日時】3月19日(土)
18時30分
【場所】まじやらいん(中屋敷1-7-41)
旧中島産業事務所跡
【問合せ】0900-5780-3554(西村)

と名付け、現在、会の立ち上げに向けて活動しています。
まずは「上釜を愛する会設立準備委員会」を組織し、上釜を離れた方々の連絡先、居所等についての情報収集を始めました。今後は、お茶っこ会など、上釜に住んでいる/住んでいないに関係なく、皆が交流できる機会を定期的に設けていく計画をしています。
会の正式な発足に際し、設立総会を開催します。堅苦しいものではなく、お茶っこ会のような雰囲気で開催したいと思っていますので、どうぞお気軽にお越しください。
(上釜を愛する会設立準備委員会 西村)

あ の日から5年。た
だただ目の前の課
題の解決に追われてき
た感があります。すべ
てが破壊された石巻。
私も当時は漁港近くに
住んでいたもので、家も
車もすべて飲み込まれ
ました。まさに今まで
の人生がリセットされ
たようなものでした。
そこから自分のでき
ることをただがむしや
らにこなしている中
で、仮設きずな新聞の
編集委員というお話を
頂きました。私は特別
専門分野があるわけで

民 宿のリニューアル
工事をしている3
か月間の限定で、営業
も兼ねての小さなボラ
ンティアのつもりで始
め、気が付けば約2年
が経ちました。当初は
牡鹿半島全体約30ヶ所
の仮設住宅に配布して
おりましたが、工事完
了後は7ヶ所に数を減
らし、出来る範囲で活
動してきました。忙し
くて配布が遅れること
もあり何度も辞めよう
かと考えましたが、辞
めてしまったら地元の人
達と話す機会が少な

土の人と風の人と

仮設きずな新聞 終刊に寄せて

Vol.3

くなるかと思ひ、それ
は寂しいと継続してき
ました。
両親が民宿を開業す
る20数年前まで、ワゴ
ン車で行商をしていた
こともあり、牡鹿のど
この浜に行つても「め
ぐろ」の名は知られて
いました。いつも両親
の話で盛り上がり、お
茶っこさせていただく
こともありました。新
聞配布を通して、改め
て42年間住み慣れた牡
鹿の人、自然を身近に

はなく、何ができるだ
ろうかと考えていた時
に川柳コーナーの担当
となりました。川柳の
知識はそれほどありま
せんでしたが、仮設住
宅に住まわれている方
にとつて元気が出るよ
うな、ちよつと笑える
コーナーにしたいと思
い取り組んできまし
た。紙面の関係で毎回
というわけにはいきま
せんでしたが、コアな
ファンに支えられ（
笑）、楽しい経験でし

た。編集メンバーとの
会議や研修なども自分
自身の勉強になり本当
に感謝しています。
この3月で新聞は一
区切りとなりますが、
皆さんとのつながりは
新聞が終わつても形を
変えて続けていければ
と願っています。皆
さん、お疲れ様でした。
そしてこれからもよろ
しくお願いします。
復興大学 伊東 孝浩
(東のイトウ)

感じるものが出来まし
た。今後はこの繋がり
を通じ、牡鹿の魅力
を継続して発信してい
きたいと思ひます。
編集長アキさん、編
集部やボランティアの
皆様、本当にお疲れ様
でした。この活動に関
われたことに感謝しま
す。ありがとうございます
ました。
民宿めぐろ／牡鹿地区
配布ボランティア
目黒 繁明

私 が石巻を訪れたの
は、2012年夏。
約4か月間、仮設きず
な新聞の制作に携わる
記者ボランティアとし
て活動しました。町を
歩き回つて、再開した
お店に声掛けし、広告
をデザインしたり、新
聞配布の活動を通し
て、新聞の読者である
住民さんとお話もでき
ました。「今回はどんな
記事が載つてるの？」
「こゝ、私がデザインし
たんですよー」。こん
な会話が、とてもうれ
しかったです。
石巻から離れた今
も、仮設住宅で出会つ
た方とお手紙の交換を
しています。また、仮設
きずな新聞に関わつた
ことがキツカケで、今
は地域情報誌を制作す
る会社で働いていま
す。いろんなキツカケ
を作つてくれた仮設き
ずな新聞。終わつてし
まっても繋がりは大事
に、これからは石巻に
関わつていきたいなど
思ひます。今まで本当
にお疲れ様でした。

デザイナ／挿絵担当
妙本 咲季(みよ)

3月のイベント情報

■3.11 忘れないウォーキング in 石巻
祈ることしかできなかった「あの日たち」を
想い、5年目の石巻を歩きます。追悼と被災
者の「こころの復興」を祈念しながら・・・
日時：3月11日(金) 8時45分～
集合場所：JR石巻駅前
コース予定：石巻駅～立町大通り～日和山
～南浜地区～日和大橋～湊地区～内海橋
～SSマツムラ(解散)…約10km
参加費：500円
問合せ・申し込み：
石巻スポーツ振興サポートセンター
(0225-96-4334/info@i-support.or.jp)

■出前 田辺寄席～上方落語を聴く会～
大阪で41年続く地域寄席が、石巻の皆さまに笑いを
届けに来ました。お誘いあわせて、下駄ばきで、上
方落語を楽しみにお越しください。
日時：3月13日(日) 13:30～15:30
場所：市営新蛇田第1集会所 (蛇田字新立野76)
入場無料/定員60名
(電話にて先着順 0225-22-0223)
主催：石巻仮設住宅自治連合推進会



わっばかフッキング

すうい~とポテト

35品目

- | | |
|-------------|------------------|
| ■材料■ | ★バター風味マーガリン …50g |
| さつまいも …500g | ★練乳 …50cc |
| 牛乳 …50cc | ★砂糖 …30g |
| 卵黄 …1コ | |

■作り方■

- [1] さつまいもは皮をむいて、2cm角に切り、被るくらいの水で茹でる。
- [2] 柔らかくなったら湯を捨て、牛乳を入れ、マッシャーなどでつぶす。
- [3] だいたいつぶれたら、★を入れ、ぽつぽつりするまでよく混ぜる。
- [4] 粗熱がとれたらカップに入れ、卵黄を塗り、トースター（上火だけだとなお良）で焼き色がつくまで焼いたら出来上がり！

今回は、いつも蛇田・渡波エリアの新聞配布を手伝っている地元ボランティアのみなさんが、おしゃべりしながらの簡単スイーツ作りです。洗い物が少ないのも嬉しいポイント。オーブンではなくトースターで焼くこと。そうすることでパサパサにならず、しっとりするそうです。（あき）

ひよっこ先生 其の六

包括ケア奮闘記

こんにちは、開設仮診療所のふじとです。今回は今年度から始まった「認知症初期集中支援チーム（以下、支援チーム）」の取り組みについてご紹介したいと思います。身近な人が認知症かなと思ったら、地域包括支援センターや介護保険課に相談されますよね。けれども家族や周囲の人が困ってから相談すると、認知症が進んでいた

り、介護している方が疲れ切ってしまったりして、対応が困難になることがありません。今まではそうした時に支援してくれる仕組みがなく、その結果施設等に入るしかありませんでした。支援チームはその時、医師や保健師、ケアマネさんなどが一丸となって応援団として活動してくれています。

支援チームは、包括ケアセンターと介護保険課とで協働しながら、支援が必要な人がいないかを常に確認しています。そして、必要があればご自宅へ伺

い、直接ご本人から話を伺ったり家族の方との相談のらせてもらいます。その後、定期的に状況を確認しながら適切な支援に繋がっていく、その方が自宅で暮らし続けるサポートをしてあげられます。

認知症はある日突然なるものではなく、数年かけてゆっくりと進行していきます。だからこそ、早めに気づいて準備をすることが大切なんです。少しでもおかしいなと感じたら地域包括支援センターなどにご相談下さいね。

こうして、仮設キッチン新聞で包括ケアの取

※2015年7~8月に開講した「文章講座」の受講生のエッセイ（作文）です。

文章講座<第2期>受講生の作品

り組みをご紹介させてもらうのも最後になります。今まで読んでくださってありがとうございます。紙面上でしていただきます。（開成仮診療所ふじと）

は会えなくなりそうです。これからの新しい聞で紡いだ「きずな」を大切にしながら活動していきます。

こな私ですがいつか、石巻のどこかで皆さんに会えるのを楽しみにしています。

5人と私

私、来てくれた友を思い、私も涙があふれた。車には食料や水、懐中電灯などがいっぱい積んであった。「被災地に長居は迷惑だから」と言われて、帰っていかない。夕日を浴びて走り去る車を見送りながら、心の中で叫んだ、ありがとう！

その夜、高校時代に仲良かった、新潟・千葉・埼玉に住む三人の友の顔が浮かんだ。震災後は電気がまだ使えず、充電は時々しかできない。電話は控えていたが、無性に電話が聞きたくなった。次々に泣きながら、「大丈夫だと信じていたけど、誰かに聞いてくれる気がした。生きていてくれたらいいな」と。良かったら、あなたなら大丈夫か、と思って暖かいから。懐かしく思い出した。涙腺がゆるんだ。一生の宝物。（みー）

雲は黄色から変わりゆく空に、

が浮かんだ。北川が優しく受けとめていた。車を止めて眺めた雲の上には綿あめのような雲が五つと離れてまた一つ。ふと、遠くに住む五人の友の顔が浮かんだ。

私は東日本大震災で被災した宮城県南三陸町に住む。自宅は高台にあったので被害はなかったが、水道も電気も使えず、国道に繋がる四ヶ所の橋が落ち、とても不便だった。

不安でいっぱいだった三月末に、群馬に住む友人、さつきから電話があった。「さつきがあなたの顔を見るまで安心できないと言ってるから、準備でき次第連れて会いに来るから」と。さつきも佐夜も埼玉の高校時代の友人。さつき、染み、優、優しい声、心に響いた。

数日後、さつき夫婦が福島に住む佐夜を乗せて来た。外で抱きついていた佐夜はなげに泣きたかった。私も泣きたかった。



こんにちは北上の青山です。縁がありまして仮設きずな新聞に関わることができ、4回目と寄稿なりますが、新聞が終刊することとなり、今回は最後となります。

ボランティアの役割

震災前は、まさか自分も仮設住宅に住む日が来るとは想像もしていませんでした。どこかで災害があっても、正直他人事ごとのように思っていました。ボランティア活動についても、片付けや炊き出しなど、一時的な活動だろうと思っていました。支援活動を継続していくことが

どれだけ大変か、残念ながらあまり報道もされていなかったので、知られていないと思います。ですが、ぜひ全国の皆さんにもっと知っていただきたいと思います。震災直後からピースボートさんは、さまざまなボランティア活動

を展開され、その一つであった「仮設きずな新聞」は100号を超えました。いろいろな情報や話題を提供していただき、団地や地区を超えた絆を作っていただきました。仮設入居者を含めて、市民に勇気と希望を与えてくれた存在だったと思います。

他地区への災害ボランティアとしての関わり方や地域の人間だけでは考えもつかないアイデアで、今まで地域のごことに無関心だった若者たちにも可能性の目を開かせていただきました。支援する立場（決して上から目線ではなく）としてのジレンマや葛藤もあったかと思いません。自分をはじめ、多くの方が受け身の「支援」から「協働」へシフトチェンジしていくなかで、いろいろな交流ができたかと思えます。支援団体の皆様には、行政が時いた種を、形は変われど一緒に耕し、これからいつまでも化学反応を与えてくれる存在でいて欲しいなと勝手な妄想を抱いております。

や休止していた施設も出来上がってきます。私は地元に残る者として、個人的にも市役所の職員、住職として、そしてまちづくり団体「インボルブきずな」と「We Are One (ウィー・アー・ワン) 北上」の一員として、今後も積極的に街づくりに関わっていきつもりです。また、現在仮設住宅に住まわれている方々にも、新しい地でコミュニティ作りなどにぜひ積極的に関わって欲しいと願っております。

地元住民の役割

北上の防災集団移転団地はすでに完成した4団地を含め、今年中に9割方完成する予定です。また8月上旬オープン予定の「復興まちづくり情報交流館北上館」を始めとする新しい施設

今まで編集長のあきさんから原稿の依頼があり気軽に引き受けてしまいました。いつも締め切りギリギリの入稿で迷惑をおかけしました。また仮設きずな新聞を毎回楽しみに待っている読者の皆様にも、つたない文章でしたがご覧いただきありがとうございます。



▲白浜防集団地からの初日の出

震災から5年、皆様にとって飛躍の年になるようご祈念しながら筆をおきたいと思えます。(北上インボルブ 青山)

編集後記

毎年3月11日が近付いてくると、テレビや雑誌などの取材が増えます。最近ではボランティア活動も少なくなってきたので、相対的に私たちの活動取材していただく機会が増えたように感じます。

取材を受けるのもエネルギーがあるので、もう断ろうかと思ったのですが、先日ベトナムに住むボランティア仲間からメールが来て、考えが変わりました。「3月11日にベトナムで震災のことを考えるイベントを開催しようと思うから、石巻の現状や課題を教えてください」というのです。震災直後から共に汗を流した仲間が、5年経って、海外にいてもなお石巻を想い、周囲に発信しようとしていることに感動しました。

震災の風化が叫ばれていますが、それを防ぐのは私たちです。改めて、よき発信者でありたいと思えました。(ピースボート あき)

■仮設きずな新聞とは… ピースボート災害ボランティアセンター (PBV) が2011年10月より、石巻市内の仮設住宅に向けて発行・配布する無料情報紙。コンセプトは「仮設住宅での暮らしに役立つ情報を届ける新聞」「ココロが元気になる新聞」。毎月10日、25日発行。毎号約5,500部発行。

■仮設きずな新聞は以下の場所でも手に入ります。あがらいん、イオンモール石巻、いしのみ☆キッチン、石巻市社会福祉協議会、IRORI石巻、おがつ店こ屋街、おしかのれん街、かめ七呉服店、からころステーション、川の上・百俵館、道の駅「上品の郷」、まじやらいん(上釜)、宮城クリニック、復興大学、包括ケアセンター(開成)、ピースボートセンターいしのみ

■「仮設きずな新聞」編集部 所在地

ピースボートセンターいしのみ (10:00-18:00/日祝定休)
〒986-0824 石巻市立町1丁目5-21 (ことぶき町通り商店街内)
TEL:0225-25-5602 FAX:0225-25-5603 Email:kasetsukizuna@pbv.or.jp

- 発行元 ピースボート災害ボランティアセンター (PBV)
- 協力 開成仮診療所/キャンパス東北/震災こころのケア・ネットワークみやぎ/街づくりまんぼう/復興大学/包括ケアセンター/真如苑救援ボランティア (SeRV)
- 助成・協賛 認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム (JPF)
- 編集委員 伊東 孝浩/苅谷 智大
高柳 伸康/西村真由美
西本健太郎/野津裕二郎
藤戸 孝俊
- 編集長 岩元 暁子
- 配布統括 田上 琢磨
- デザイン 矢野 瑛子
妙本 咲季